

会議録（要点記録）

令和3・4年度 堺市南区政策会議 第3回安全安心創出・未来共創推進部会	
開催日時	令和4年5月16日（月） 午後6時30分～
開催場所	国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）小研修室5・6
出席委員	近藤委員（部会長）、岸本委員（職務代理者）、 大橋委員、金子委員、福井委員、 二橋委員、鈴木委員、野崎委員、正木委員
事務局 管理職員	堺市 佐小南区長 南区役所 植松副区長・谷口副区長 上山参事・西村参事・吉田総務課長 喜多区政企画室長・仲田自治推進課長
議題	1. 開会 2. 議題 「南区モデル」あたらしい共助の輪を広げるために 3. その他 4. 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 安全安心創出・未来共創推進部会スケジュール（案） ・資料2 南区モデル（案） ・資料3 南区 安全・安心の実現に向けた取組状況 ・資料4 南区福祉避難所一覧（地図） ・資料5 コンテナ型備蓄倉庫内備蓄物資一覧表 ・資料6 災害用備蓄物置内備蓄物資一覧表 ・資料7 災害用備蓄物置内備蓄物資一覧表（上神谷支援学校） ・資料8 南区校区別高齢化率一覧 ・当日資料 上神谷地区防災計画

1. 開会

区政企画室長

定刻になりました。ただいまから、堺市南区政策会議第3回安全安心創出・未来共創推進部会を始めさせていただきます。

私、本日の司会を務めさせていただきます、南区役所区政企画室、喜多でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様におかれましては、何かとご多用中のところご出席を賜り、誠にありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日、野崎委員より所用のため少し遅れるところのご連絡をいただいております。また、本会議は公開となっております。会議録を作成するに当たって正確を期するために、議事内容の録音を行っております。また、記録のため、写真撮影を行います。何とぞご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

また最初に、他部会ではございますが、ブランド戦略推進・魅力創造部会の構成員に変更がございましたのでご報告申し上げます。株式会社高島屋泉北店 営業推進部政策担当課長、大嶋 元委員に代わり、株式会社高島屋泉北店 営業推進部部长、神田祐樹委員が新たに就任されました。

また、市の人事異動により今年度新たに加わりました本市管理職のご紹介をさせていただきます。

《人事異動に伴う職員紹介》

区政企画室長

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。

《資料の確認》

以降の進行につきましては、近藤部会長にお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議題

近藤部会長

皆様、改めましてこんばんは。今回、3回目の安全安心創出・未来共創推進部会です。昨年10月には全体会もありましたので、皆さんとお会いするのはこれで都合4回目になるかと思えます。

この部会のテーマ、安全安心をつくっていくためには、この部会の名前にある「未来共創」ということで、共に創る視点・観点というのが求められると思います。そのような意味でも、今日も時間に限りがありますが、たくさんの意見を委員の皆様から賜りたいと思っております。

さて、これまで部会としては2回の会合を開き、たくさん意見をいただきました。今年で部会自体をクロージングしていく方向に向かいますので、そろそろ、終わりはどうなるんだろう、どこに向かっているんだろうというご不安もあるかもしれませんので、一緒に見通しを共有していきたいと思えます。今後の取組の方向性について資料を作っていたいただいているようですので、南区よりご説明をお願いします。

自治推進課長

南区自治推進課長の仲田です。よろしくお願いいたします。

それではお手元の資料に沿って、ご説明をさせていただきます。なお、今回は、資料1と資料2についてご説明をさせていただきます。

まず資料1のスケジュールですけれども、お手元の資料のとおり、昨年度、10月4日と1月24日にそれぞれ会議を開催いたしました。内容につきましては、記載のとおり10月におきましては「南区防災活動支援事業」の事前評価及び今後の議論のポイントの共有、1月24日には福祉避難所の開設・運営や新しい共助のあり方について共有させていただいたところです。本日5月16日の内容としまして南区モデル（案）の提案及び方向性の共有をさせていただければと思っております。

ねらい及び到着点につきましては、本日は南区の特性や現状の共有、また南区モデル（案）の目的や内容で示す方向性についての議論と確定を考えております。

今後の予定ですけれども7月から8月の期間に南区モデル（案）の実現に向けて区内の施設等の視察をとということで、現段階ではこちらに記載のとおり南区モデル（案）を踏まえた福祉的避難スペース等の確認ということを実案として考えさせていただいております。

次に8月、9月ですね、それぞれ第4回、第5回ですけれども、第4回は南区モデル（案）の推進に向けた取組についての議論、第5回については南区モデル（案）の推進に向けた取組及び課題の整理ということで、ねらいを記載しています。

第5回目で、いただいた意見のまとめ、整理としており、意見をまとめる中で、短期的に実現できる取組については具体化し、課題があって中長期的に検討する必要がある取組については課題を整理するという方向で考えております。

続きまして、資料2「南区モデル（案）～新しい共助の輪を広げるために～」として、これまでの議論を踏まえ、今後の南区モデルの案をまとめさせていただいた内容となります。

テーマを「～誰一人取り残さない、『安全・安心』を南区の魅力に～」として、具体的に内容をまとめていければと思っております。

目的は、「地域の皆様が互いに協力し、すべての人が支援者・受援者として災害に対応できる安全・安心な地域の実現をめざす」ということで、新しい共助という部分で皆様、支援者・受援者として、また南区の安全・安心の地域の実現をめざしていければと考えております。

具体的な内容としましては、安全・安心な地域の実現に向け、次の取組を進めるということで4点あります。1つ目が地域と密着した防災力の向上、2点目が福祉避難所の周知、3点目が福祉的スペースの拡充、4点目が小学校区同士の助け合いということで、これまで議論をしていただいた皆様の意見を参考にまとめています。1つ目の地域と密着した防災力向上につきましては、地域のテーマ活動という部分で、日頃成人の方を中心に活動いただいているんですけども、小学生・中学生も含めて防災の取組をとということで、そういった内容を包含するイメージでございます。

2点目、福祉避難所の周知につきましては、南区に現在20か所、福祉避難所があるという話が前回までもありました、皆さん知らないというケースが多いと思いますので、そういった避難所があるということについても、皆様に知っていただくという意味で「周知」とさせていただきます。

3点目の、福祉的スペースの拡充について、福祉避難所以外、例えば自治会を含め、地域におきましても福祉的スペースの拡充を検討していければということです。

最後、小学校区同士の助け合いについて、今各校区におきましては、自主防災組織を中心に防災訓練等を行っているんですけども、それぞれの校区にそれぞれの諸課題がございます。今後、小学校区同士が互いに助け合って、中学校区の中でも助け合いが実現していければということで、この内容にさせていただいております。

資料1、2についての説明は以上となります。

近藤部会長

資料をたくさん作ってきていただいているので、恐らく、先に資料の説明をいただいてからディスカッションしたほうがいいかなと思ってるんですけども、この資料1と2はとても大事な資料なので、私からもポイントを押さえておきたいなと思います。

もう一度資料1を見ていただくと、ちょうど中段の辺りに5月16日があるわけですけども、その後視察、夏に現場をちょっと確認しに行けないかという案が盛られていまして、残るは第4回、5回ですね、第5回は大事なポイントの整理とありますけど、確認に近い作業になるかもしれませんから、第4回がかなり重要な山場になるのではないかとにらんでおいていただくといいかなと思います。

今日、大事そうなポイントを皆でいろいろ洗い出して、7月、8月に現場をちょっと確認したら、第4回が本当に大事なことの整理をしはじめるようなスケジュールだとにらんでおいていただけるといいかなと思います。

今日は資料2を議論の材料にしていくわけですけども、南区モデル(案)ということで、最終的にはこの「(案)」というのを取りたいということですね。第5回が終わった時点でそれぞれが納得する形で、このように例えば1枚の紙に落とし込んでいくっていうことができると、未来に向けてバトンしやすいのではないかと思います。

「新しい共助の場」という言葉は、当初から何度も出てきていますけれども、この中身をどう盛り込むかが今日の議題でもあります。サブタイトルが「～誰一人取り残さない、『安全・安心』を南区の魅力に～」ですが、この「誰一人取り残さない」というのは、皆様がふだんも関わっていらっしゃる教育とか福祉の重要なテーマ「インクルーシブ」という言葉でよく言われています。包摂する、つつみ込み合うような社会に、これをどの区でもこれから進めていく、それも「南区の魅力に」とありますので、ほかの部会でもブランド戦略などを議論してますけれども、この「安全・安心」というものの価値が南区の魅力になるように、進めていきたいという決意表明ですね。

目的と内容が書かれていて先ほどご説明があったとおりなんですけれども、少し私が色をつけておきますと、「地域の皆様が互いに協力し、」、協力し合うことは大事ですよ。 「すべての人が支援者・受援者」というのがこれかなり踏み込んだ内容です。普通は社会的に弱者と呼ばれている、立場が弱い人を支えようという、まずそういう手を差し伸べるといところは強調されますけれども、それを受援する、それを受け入れて助けてもらう、うまく助けてもらうということです。例えばご高齢の方でも元気な方であれば要配慮者だと決めつけるのではなくて、一緒に知恵や力を出してもらおう、例えば障害がある方の中にでもいろんな力を尽くせる方がいて、その人にも力を尽くしてもらおう、逆にふだん健康な方もけがや病気をしたら支援をしてもらおう。受ける側に回るという意味での「すべての人」という意味で、たった10文字ほどなんですけども、これは非常に大事な言葉だなと伺いました。

内容の部分も今日議論したいと思います。皆さんもああしたほうがいい、こうしたほうがいいのか、具体的なアイデアを出し合えるといいと思います。内容には項目が四つあります。1つ目の「地域と密着して防災力向上」というのが、ある意味自助の力を高めようという部分にもなり、防災教育も含めて考えておくといいですよと先ほどアナウンスがありましたね。あと、南区にはたくさんの防災士さんがいて、しかもその養成を続けているということも1回目の会合で教えていただいたところです。この部分は、災害が起きたときにすぐに命を落とさないように、しっかり命を守るという意図が込められてますね。そして2つ目、3つ

目について、災害が起きて生き残った後によく避難所に行けるわけですが、そこで災害関連死を出さないという決意です。せっかく地震とかで助かったのに、体育館などで病气されて命を落とす方のほうが最近多いんですね。災害関連死、この二次的な被害をなくしたいって思いで福祉避難所や福祉的スペースを拡充しようということが盛り込まれている。そしてそれを南区全域で行いたい、広域で助け合いたいという意味で「小学校区同士の助け合い」というのが明示されています。自分が住んでる小学校区だけ安全・安心であればいいじゃないか、ではなくて、もし自分が住んでいる小学校区が無事ならば、お隣さんの校区は大丈夫かなというふうにちゃんと見てあげられる助け合い、広い広域の助け合いを考えていきたいということですね。

これらの議論を進めるに当たって、たくさん資料を準備していただいていますので、先に南区からご説明いただいてもいいですか。

資料3からお願いします。

自治推進課長

それでは、お手元の資料3からご説明させていただきます。

資料3「南区 安全・安心の実現に向けた取組状況」について、こちらは昨年度の資料の中でも項目は挙げさせていただいてるんですけども、具体的にどの主体・組織が、どういう形でやってるかという部分については、説明ができていないところがありましたので、まとめております。

「避難所」について、「指定避難所」「福祉避難所」「福祉的スペース」と大きく3つに分けています。「指定避難所」は各小学校、南区で風水害のときは20か所、地震発生時は35か所という状況になっております。こちらは主に、区役所と各校区自治連合協議会の皆様で取組を進めています。区役所の取組は、先ほど近藤部会長からもお話がありましており、防災士の養成講座であったり、コロナを踏まえた対応の訓練だったり、昨年は福祉避難所の訓練を想定しておりましたので、昨年度の事業として、福祉避難所のお話をさせていただいたところです。今年度も「災害対応訓練の実施」を予定させていただいております。その下の各校区の自治連合協議会の取組は、「自主防災訓練」と「地区防災計画の策定」です。「自主防災訓練」について、各校区に自主防災組織がございますので、自主防災組織が中心になりまして、各校区で毎年訓練を実施されております。また「地区防災計画の策定」につきましましては、校区で防災の取組の一環として具体的な内容を取りまとめていただいております。参考に当日資料「上神谷地区防災計画」を追加させていただいておりますので、後ほどお時間があるときにご覧いただければと思います。

続きまして、「福祉避難所」について、主体となる組織は区役所、そして、高齢者福祉施設、障害者施設、支援学校等です。区役所では令和2年度までは具体的な対策は行っていないという状況でした。昨年度の具体的な対応として上神谷支援学校での避難自治訓練を予定していたんですけども、コロナウイルスの感染拡大を受けまして延期とさせていただきます。今年度、改めて開催の予定で考えております。福祉施設等について、冒頭でもお話させていただきましたとおり、福祉避難所として20か所を今指定しているという状況になっております。

「福祉的避難スペース」について、主体となる組織として各校区自治連合協議会（自主防災組織）と書いていますが、一部自治連合会においては先行して取組を始められているところがあるという状況で、実際はこれからのことになると思います。具体的には支援避難所ということで、「福祉的避難スペース」と書いていますけれども、先行実施されている校区については「支援避難所」として今現在取組を進められているという状況になっております。以上、資料3についての説明となります。

続きまして、資料4をご覧ください。前回のお話の中でも南区には20か所の

福祉避難所がありますが、具体的にどの辺りに福祉避難所と指定されている施設があるのかという一覧になります。具体的な場所についてはこちらの資料を参考にご覧いただければと思います。

続きまして、資料5ですけれども、コンテナ型備蓄倉庫内備蓄物資一覧表です。先ほど、指定避難所についてご説明させていただいたんですけれども、その指定避難所にはどういう物資が備蓄されているかという内容となります。資料5は各小学校区のグラウンドに備蓄物資として現在置かれているものとなります。

資料6は災害用備蓄物置内備蓄物資一覧表です。資料5と資料6の違いについてですが、各小学校に備蓄倉庫といわれるものが2種類ございまして、一つがコンテナ型の備蓄倉庫、2つ目が災害用備蓄物置です。それぞれの中に用意されている内容がこちらの資料5と6となっております。

なお、それぞれの中学校に同じくコンテナ型の備蓄倉庫があるんですけども、そちらは、マンホールトイレがなく、その点小学校・中学校では大きな違いがあるという状況となっております。

続きまして資料7は上神谷支援学校の現在の備蓄物資一覧です。物資としては、毛布とマンホールトイレが用意されています。毛布につきましては、書き方がややこしくなっていて、品名・仕様のところに450枚、数量45箱となっておりますが、トータルで450枚ということになります。一箱当たり10枚の箱が45箱ということで、毛布は450枚とご理解いただければと思います。マンホールトイレは5つ用意されています。

続きまして、資料8「南区校區別高齢化率一覧」について、各校区における自主防災組織の担い手の高齢化が進んでいるというお話が以前ございました。今、実際どういう状況かという資料がこちらになります。それぞれ校區別に書いていますけれども、南区全体で平均しますと高齢化率約35%という状況となっております。

最後に、地区防災計画です。今日は上神谷地区の防災計画を皆様にお配りさせていただいております。具体的には各校区・地域において、具体的な防災対策の手順の現況を皆さんに理解していただいて防災に備えるということで、その内容がこちらに書かれています。資料3の各校区自治連合会の中の取組として「地区防災計画の策定」と記載していますが、その地区防災計画のイメージとしてご理解いただければと思います。

本日、提供させていただいております資料につきましては以上となります。

近藤部会長

たくさん資料がございましたので、飲み込む前に通り過ぎてしまったなという方もいるかもしれません。最後にご紹介いただいた地区防災計画というのは、各コミュニティで災害に備える計画をつくり、その上で備えを進めてねというものになっていまして、今、国の内閣府が旗を振って進めており、地区防災計画学会という学会までつくられています。早いところでは、既に一度は策定してその見直しに入っているということです。例えば、頂いた冊子の21ページを開いてみますと、大きな地震災害が起きた場合に、住民の皆様がどのように避難するかというフローチャートが書いてあります。①②と順番に右に進んでいきますが、⑧まで来まして本来であれば指定避難所に避難ということなので、最寄りの小学校に行く方が多く想定されているわけなんですけれども、その下にもう一個運用可能ならば一時避難として地域の会館も使ってみようかと計画されているわけですね。こうしたことを地域で計画しておいて、実際に使えるかどうかを確認していくと、避難所があふれかえることが軽減化できるだろうということです。

さらに、ちょっと踏み込んでみますと、しっかり計画ができているところはひょっとしたら混乱なく進むかもしれませんが、お隣の校区がしっかり計画できてないとそこからいろんな人が流れ込んでくることもあり、結局全体が台無しにな

るということもあるんですね。1か所だけ炊き出ししていたらやっぱりそこに行こうかなって人は動きますよね。最近ではツイッターなどを使って「炊き出しナウ。」という情報がすぐに拡散しますので、首尾よくいつている避難所が後から混乱するという事も起きるんです。そのような意味でも南区全体がやはりこのように秩序立った避難生活を計画していく必要があるということですね。救助や救出、それから避難生活に必要な物資が各小学校に保管されているというリストをお見せいただきました。救助の道具は豊富にありますよね。斧とか、ハンマーとか、鋸とか、つるはしとかありますけれども、誰が取りに行くんだろうか、それは使えるんだろうかというのをあらかじめ確認しておく必要がある。仮設トイレ、簡易トイレは各小学校にあるけれども、実際に使ってみないと組み立てられるかどうかさえ分かりませんね。それから福祉避難所になっている支援学校に行きますと、備えられているものは随分異なりまして救助用の道具などはないということですね。一般的な避難所となる小学校では資料5のリストにたくさん載っていましたが、支援学校になると資料7のとおり、これをどう使うのか、足りるのかな、みんなで拡充していくのかなというのは地域も踏まえて考えないといけない。さらにそれを踏まえて資料4、これは私の頭の中では一番見えていなかったことですが、地図を頂きました。小学校区の区割りとその丸数字で福祉避難所の位置が①から⑳まで示されています。地域的な偏りがあるのではと思いますね。あれ、私の校区にはないわという方がいるとなると、じゃあ最寄りの福祉避難所はどこなんだ。ということにもなりかねない。早い者順ってわけにいかないですね。福祉避難所はもちろん、一度指定避難所に行ってから本当に必要な方に行っていただく、振り分けをしてから使う場所なんだけれども、このように地域的な偏りがあるようにも見受けられる、この辺りは皆さんの頭の中にも地図があると思いますので、議論の中でもご指摘いただいてもいいのかもしれない。

たくさんの資料に囲まれる形になっていますけども、ここから1時間ぐらいはいろんな意見を出していただきたいと思います。議事録に残せるので閃いたこと、思いついたことをたくさんお話しいただけるといいかなと思います。

資料2で見てきたような南区モデル（案）についてご意見いただいてもいいですし、その中でも細かい部分、今日気づいた点やこれまで言い残してきたことなど、教えていただけたらいいかなと思います。

では、思いついたところからという感じでも構いませんのでご意見を賜りたいと思いますが、今日はどうしましょう。ビッグ・アイにお邪魔していますので、鈴木さんから口火を切っていただけるとありがたいです。

鈴木委員

ビッグ・アイの鈴木です。

モデル（案）の内容について、今4つ掲げていただいている中で、もしかしたら「地域と密着した…」の項目に入るのかもしれないんですけど、さっき、部会長のほうからツイッターとかで情報発信していくとか、情報って皆さん取りたくてもなかなか取れなかったりとか、障害のある人は特に情報をどこから取るかが難しいので、情報収集や共有・発信、情報の受発信の強化といったことも重要ではないかなと思いました。

それから、災害時の備品等ですけど、どう使うとか誰がどうやって準備するか、その物はあるけどそれをどのように生かしていくかっていうところについて、皆さん想定があるのかなという疑問が1点です。それから例えば、災害時だけがした際などの担架はあるんですけど、車椅子だと一人でその人を運べるので車椅子はあったほうがいいのかとか、障害のある方には大人でもおむつが必要になったりとか。生理用品とかはあるんですけど、赤ちゃんのおむつはもちろん大人用のおむつが十分かっていうとそうじゃないものもいろいろあると思いま

す。特に支援学校の備品が物すごく少ないので、通常要配慮者の人のほうがきっと必要なものが増えてくると思うんですよね。このあたりも今後どういうふう
に、必要な物を想定して備蓄していくのかというところを考えないといけないの
かなって思いました。

近藤部会長

同感だなとうなずいてる方も大勢いたので、すごく重要なポイントをまずご指
摘いただいたと思います。

せっかくいろんなテクノロジーもあるので、災害時の情報収集とか受発信のツ
ールを強化してほしいという声は強いと思いますので、これは項目を分けて明示
してもいいかもしれませんね。ツイッターやLINEグループ、あとフェイスブ
ックなど、そうした通信でいろんな手だてを考えているところも多いと思いま
すし、行政に任せるだけじゃなくて、それを住民同士で連携していく手もあるか
と思います。

今日の資料で地区防災計画の中を見ると無線機を使って校区の中で情報をやり
取りするって書いてあるページがありまして、29ページと30ページですね、
この小型無線機を使うって今、はやりなんですけど、キャンプ用の小さいもの
だと届かないんですね。ちょっと大きめになるんですが、どの周波数帯でどのチャ
ンネルを使うかって決めとかなないと、隣の校区と混線して実はいまうまくい
かないというのが分かってまして、こういうアイデアも南区全体で実は作戦を練
っていったほうがいい段階がやがて来ると思います。

それからおむつ、神戸市などでは小学校に子ども用と大人用のおむつがありま
すので、そこに行けば安心だということは共有されてるんですけども、今後そう
した「こんな備品は絶対要るよ」という声を束ねていく必要がありますよね。車
椅子の件も多分、同感だなと思った人いると思うし、介護が一旦一区切りして
自宅に車椅子が余っている方も最近いるので、みんなで車椅子などの搬送の道
具を持ち寄りませんかというやり方もあるかもしれません。そして支援学校で
何を保管し、備蓄していくかというのもぜひ。

私、南区在住じゃないのに言うのもあれですけど、南区こそ支援学校の備蓄が
充実しているというのが一つのブランディングになってもいいんじゃないかな、
そのくらい頑張れるといいのかなとも思いました。

鈴木さん、ありがとうございます。また後でひらめいたら教えてください。

もうここから自由に行きたいと思うんですけども、それだったら私も関連し
てという方がいらっしゃったら、いかがでしょうか。

正木委員

正木です。

まず、備品のことなんですけども、去年の12月に祖母が亡くなりまして、介
護のおむつですとか、車椅子がたくさん余ったので寄附をしたいと思って介護施
設に何件か電話をしたんですけども、「今、コロナで受け取れません」や「今
は大丈夫です」という意見が多くあって、結局寄附せずにジモティーというア
プリアでお譲りに出しました。さっきもおっしゃられてたと思うんですけども、
余っている物はやっぱりみんな持て余していると思うんです。ジモティーとい
うアプリの地元の掲示板で、いろいろみんなやり取りをするんですけど、結
構物を出してる人がいるので、そういった物を集めて備蓄できれば、大分助
かるんじゃないかなと思います。

あと、情報の話が結構出てたんですけど、ツイッターとかLINEとかフェイス
ブックというのもありますし、うちの地域では自治会がないので回覧板とかも
ないんですけど、そういうのを地域ごとにかたまっていけばもっと広がる
かなと思いました。

近藤部会長

ジモティーというアプリを使ったということですが、私は知識がないのですが、例えば最寄りの自治会館で預かってストックしておくとか、何か管理する方法があれば有効に生かしていけるのかなとも思います。海沿いのエリアではやはり搬送するってとても大事で、津波が迫ってきた場合に走って逃げられない人を運ぶために、あらかじめ車輪がしっかりしている車椅子の台数を確保したり、中にストレッチャーとかしっかりしたタイヤがついた物、もちろんリアカーを買うところもありますけども、そういう作戦を取ってるところも出てきますからね。

何でもかんでも新品を買えるほど財政に余裕がある時代ではありませんので、今、正木委員がおっしゃっていただいたように、寄附したいな、提供したいなという人の志をうまく生かせるといいなと思いました。情報のツールはひよっとしたら若い方がさらに知恵を絞って、そういうコミュニティをうまくつくってくれると助かるかもしれませんね。アナログな回覧板も、とてもやさしい道具だと思うので、アナログとデジタルが両方あると若者もご年配も助かるなと思います。

デジタル回覧板っていうのは山口県などでも試されてましたけども、iPadのタブレットがどんどんリレーされるんですけども、いろんな工夫があり得るかなと思いました。

では関連して、もしくは例えばここはとか思いついたことがあれば教えていただきたいですがいかがでしょう。

岸本委員

岸本です。

はっきり申し上げまして、福祉避難所の周知、これはちょっと無理な面が出るんじゃないのかなと。といいますのは、避難所のあるところは、ここにありますよと言えると思うんですけども、ない地区はここへ行ってください、ここにありますよと言っても何それと言われるだけだと思うんですね。どうしても小学校の第一次避難所で福祉的避難スペースをつくらなければいけなくなると思うんですね。この福祉避難所にしても何名まで受けられるんですかとか、どういうふうな程度でいくんですかという一覧表などももう少し分かりやすく出すのがいいのかなと思うんですけども、まずは第一次避難所でも大丈夫ですよと言えるぐらいの拡充は我々も自治会の問題と思うんですけど、やっぱり行政も考えていただいて、一緒にやらなければいけないのかなと思っています。

近藤部会長

このままこの情報を公開すると、かえって混乱するのではないかという心配で、多分それは委員の皆さんも共有されているところだと思います。あと、どれぐらいの人が入れるのかというキャパシティも大きな不安材料になっていて、一次避難所の指定避難所でさえオーバーフローするのであれば、まして福祉避難所はどうなんだろうと心配な部分もあると思います。この点、金子委員はいかがでしょうか。

金子委員

うちの校区には、福祉避難所が一か所しかなくて、そのスペースでどれだけの人が入れるのかなというのはすごい不安です。地域会館ももしものときには避難所として使うようにはなっていくと思うんですけども、どれだけの障害のある方なのかとか、そういう方が行けるところを果たして充実できるのかなっていうのはちょっと分らないです。

近藤部会長

民生委員さんの中でも、不安な声とかよく分からんなあつていう声も出てるんですかね。

金子委員

そうですね。こちらが支援したいとお声掛けして素直に受け取ってくださる方もあれば、絶対支援が必要だなと思う方でも拒否される場合も結構あったりします。支援される方が上手に受けてくれると有り難いんですけども、そのところが日常の活動の中で難しいところです。

近藤部会長

あなたはあっちに行きなさいとあなたはこっちですと決められるのがしんどいと思う方が多いというのも問題ですし、あそこに行きたいな、私はそこに避難できるだろうなと思いついていても、そうなるとは限らないという問題もありますよね。

この点、こうした情報を少しでも開示しようと動いている自治体も大分増えてきましたし、もう一度資料に戻りますとこの「地区防災計画」に、配慮が必要な方にはどういうふうにサポートするか、目のご不自由な方はこうします、耳のご不自由な方にはこうしますというのが26ページに示してありまして、27ページには福祉避難所の説明があり、特に生活に支障を来す方にこの場所を使ってもらえるようにしていきましょうということを、地区で周知してくださってるんですね。だから、ここまで地区の皆さんのことを信頼して情報提供して、うまく融通していこうとなれば、そしたら次は足りない分を増やしていこう、足りないのであれば場所を譲って自分の家が無事であるならば自分の家で頑張ることも考えましょう、という作戦もあり得るわけですね。

21ページの住民の避難行動の流れを見ると、家の前に「無事ですマーク」を出した方は家で踏ん張るといって作戦になっており、いの一歩に避難所に行って場所取りなんかしないよということだと思えます。こうした地区のルールが育っていくならば、もう少し避難所の考え方をしっかり考えていくことができるのかなとも思えます。

このあたりの話題について、この点が問題だとかこんなふうにしたらいいのとか、コメントある方、では、大橋委員からお願いします。

大橋委員

大きく四つお話しします。福祉避難所について、本当に何かあったときに福祉避難所にどれだけ受け入れができるかというのは、一番最初から話題になってきたところです。場所については、南区の人は大体把握できてたと思うんです。人数的にどれぐらいいけるのか、コロナになってしまったので、本当のところ実際は受け入れることができるのか、本当はそこまでの回答がこの会で欲しかったところですよ。実際に、一次避難所に行ける人は福祉避難所に行くことって多分必要ないんです。福祉避難所に行かなあかん人は一次避難所に行けない人なので、その人をどのようにして拾っていくかということのほうが一番大事なんやと思えます。

ふだんの道みたいにきれいな道じゃないんで多分道は崩れてるし、ブロック塀は崩れているので、杖をつけて普段歩いている人も避難所に行くことがとっても困難、車椅子がガタガタの道を押して行けるかというのは、なかなか難しい。そのところをどうするかが一番大事なところだと思います。うちの校区は福祉避難所が一つもないんです。土地はあるのでそこに来てほしいんですけど、そんな話は全く進みません。お金がもうからない話は進まないのでも困っています。うちの校区の中で福祉避難所に行かなあかん人は、他校区にお世話にならな

いといけない。その人たちをどこに通したらいいのかって悩めます。民生委員さんもそのところ、悩みはるところやと思うんです。でも民生委員さんがそれをお世話することはとても難しいことで、どこ福祉避難所に行けるのかというのは、その人がかかっているケアマネさんとか、通っているデイサービスとかで、本来はうちの校区の誰がどこへ避難できるのかなということを普段から吸い上げて調べて行くところができたら一番いいんですけど、そういう情報って個人情報やし、それが難しいところやなと思います。

3月にうちの校区で避難訓練をしたかったのですが、コロナやっついで結局集まってはできなかったんですけども、学校の給水栓やマンホールトイレ、備蓄倉庫とか中身を全部確認して写真を撮って、こんな状況で入れてもらってます。災害備蓄倉庫はこんな状況ですとお知らせしてるんです。上神谷校区とか、大きいところ、会社があるところとかは重機があるかと思うんですけど、うちの校区は住宅と団地しかないんで重機は全然存在しないんです。その使い方さえ、みんな分からないと思うんです。家がいつぶれているのに、備蓄倉庫に入っているのがハンマー2つじゃどうもこうも行かへんところなんです。かといって、自治会館でハンマーばかり置くとか、そんなこともできひんもんで、この備蓄倉庫には、こんだけしか入ってないんですよ、だから何かあっても助けられへんよということを強調しました。おむつも入ってないんです。もし何かあって大人のマンホールトイレがあっても高齢者の人は使いにくいと思うんです。私らでもやっぱり外行ってトイレに行くの嫌やし、まだ昔のボットン便所を経験してる私らでも嫌やから、若い子なんか絶対嫌やと思う。本当にそういうのって困っちゃうんで、子どもも大人も例えばおむつがあれば、おむつの中ですることって可能じゃないですか。そのところを周知したりとか、もしものときのために子どももおむつ持つといたほうがいいよ、小学生になっても女の子にはトイレに行くの嫌やったら、おむつとか用意しといたほうがいいよっていう話とかもしました。

この青いコンテナというのはもし何かあったときは、ヘリコプターなんかでどっかに持って行ったり、ほかの校区で例えば津波があつたり物資がなくなつたりしたら持って行くことってあるもんなんですか。ずっとうちの校区が使える物と考えてよいのでしょうか。

自治推進課長

今、ご質問いただきました倉庫に置かれている物についてはそれぞれの小学校校区、小学校に設置されていますので、その中で使っていただくものということで、考えていただけたらと思います。

大橋委員

例えば地震のときに何かあって、そんなにこの南区では被害がひどくなかった、ほかの海沿いのほうではちょっとひどかったから、うちからちょっと持って行きましようとかそんなことはないんですか。そういう想定とかないもんなんですか。そういう噂があつたりしたので、ここから持って行くこともあるよ、だからこの中にうちで買った物を入れることはできへんよっていう話があつたんですけど、そういうこともあるんですか。

自治推進課長

今、具体的にそういう内容で、危機管理室等からは言われてないですけども、当然今後、可能性として今お話しいただいた可能性はあると思いますので、そういった場合に例えば応援に行くということであれば、それぞれの小学校区の可能な範囲で道具を持って行っていくということは、可能な部分もあるかなと思います。具体的には危機管理室に確認しておきます。

大橋委員

それと、地区防災計画。原山台校区が防災説明会を開催したということを知って、「ああ、ちゃんとしてはってすごいな」と思って見てたんですよ。うちの場合は、毎年防災計画を立てよう、ちゃんとしようという話をするんですけど、コロナのことで結局みんな集まらない。防災に関しては校区全体なので、自治会に入ってる・入ってない関係なしにやりたいと思っても集まらないんです。防災士さんも、確かこの校区では6人いるはずなんですけど、6人がそろって話し合ったことは全くないんですよ。うちみたいに計画が全然できてない校区には、こんな立派な防災計画書は作れないけど、これぐらいやったらできるんじゃないかという簡単なフォーマットがあったら。ここの名前を入れ替えて、こういうふうに数値を書いたら、私たちでもできるというようなことなら、とってもありがたいなと思いました。

それと情報のLINEのことなんですけど、校区の自治会の中の情報共有でLINEにしましょうと言うても、なかなか「うん」と言うてくれないんですよ。LINEは嫌という人もいっぱいいるのでとっても難しいんです。南区の自治会連合協議会ではLINEワークスをやり始めたと思うんで、そこで頑張ってる皆さんにどんどん使ってもらえるようになって、うちの校区でも防災のときはLINEやったら可能性がある。ツイッターも若い子に入ってもらって、情報を発信してほしいと思うんです。若松台の防災っていうLINEは作ったんですけど、30ぐらいしか登録されてなくて、なかなか難しいところでした。

近藤部会長

大きく四つで、どれも重要なポイントでした。一つ目の福祉避難所まで来れない人については、資料2の南区モデル(案)にもあった「誰一人取り残さない」というのであれば今、大橋委員に言っていたような、そもそも家から動けないような人のことをしっかり考えないといけない、ぜひこの場でも共有していかないといいかなと思います。そこにこそ、地域の力が必要になってくると思うんですけどね、個人情報の問題を乗り越えるには、もうどこにどんな人がいるか、知り合っている者同士で手を引いてあげるような、声をかけてあげるような関係性が必要かと思います。あと、ケアマネさんがケアプランに個別避難の計画を書き込んでいくというのはあちこちで始まりつつあります。うまく進んでほしいんですね。「誰一人取り残さない」という理念を見失わないようにね、大事なコメントをいただけたと思います。

倉庫の備品について、応援したいときにそれ持って行っていいんだろうかというのはすごくいいアイデア、つまり助けてもらうとか自分の地区のことだけ考えるんじゃなくて、もっとピンチのところにそれを使ってもらえるようにしたいというのは、これはすごくいい発想で、それは新しい共助の輪っていうものそのものだと思うんですね。まずは南区の中のほかの校区を助けてあげるために融通してあげるっていうのを考えるといいかなと思いますけれども、ゆくゆくは堺市全域を、特にやはり南海トラフ巨大地震では海側の被害が懸念されますので、いいと思います。コンテナごと全部持っていっちゃうということはちょっとオペレーションできないと思うんですけど、中身を貸してあげるというのはあり得ますね。別の自治体で私が関わってる場所では、既に融通し合う計画をつくっているところもありますので、そのときにはコンテナの中に何が入ってるのかをつまびらかにしておくことが大事ですね。うちは発電機がたくさんあるから貸してあげるよとか、そういうことを決めている場所もあります。応援したいときに備品を使えるといいという考えは、意識に止めておくといいかなと思いました。

地区防災計画の、作りやすいフォーマットが今あるかはちょっと定かではないんですけど、少なくともこれ、今日これ公表していただいたのでこの中の目次で気になるページだけ、我が地区でまとめておくということからスタートでいいと

思うんですね。見てますと、半分ぐらいはそのままコピーでもいいかなということが要点として盛り込まれてるので、自分の地区にアレンジしてもらって、大事なものが全ての校区のこの計画をできたら見せ合いっこするというのが南区のためにあって、とても大事なことだと思います。

LINEグループについては、皆さんの気持ちがかたまればLINEという手もあるし、やっぱり別のほうがいいな、アナログがいいなという方も多いと思うので、まずはいろんな情報ツールを洗い出して、どれにするか決めていただくしかない。若い人が勧めてくれるのが一番ハッピーだと思いますね。得意ですもんね。ありがとうございました。たくさん意見をいただきました。

福井委員

福井です。

1点目、資料2の内容の中の2つ目、福祉避難所の周知、先ほども意見が出ましたけど、誰にどのような形の情報を出すかということが確認できたかなと思いました。

2つ目、堺市全体の話になってしまうのでこの意見はどうかと思ったんですけど、この上神谷地区の防災計画の中に、配慮が必要な方として「乳幼児、妊婦」という言葉が書かれていて、子どもと妊婦を受け入れるとしたら、保育園とかこども園は各小学校区にいっぱいあるから、そういうところを足していくことによって、南区モデルとして福祉避難所の幅が広がり、「うちの校区にないのに」にはならへんのかなと思ったりもしました。大きい話なので現実になるかどうかは置いておいて、意見です。

もう一つは、私が住んでいるところは昔ながらの5階建ての階段のみの分譲マンションでちょっと特殊な形なんですけど、年に1回階段掃除をしております。そこで初めて十軒が顔を合わすという機会がころうじて残っています。業者に管理をお願いしてるのでそこは管理人さんがしてくれてるんですけども、住民の顔を合わすために年に1回はやりましょうと自治会で決めて各階段の掃除をしています。上神谷地区防災計画の中の「黄色いリボン」のルールと一緒に、皆さんにまず何かあったら一旦白いシールを貼るというルールがあるので、それをした上でこの目の前の公園に集まりましょうということを、防災の意識を高めたかったので、1年に1回だけ確認するようにしています。そういう輪が広がるといいな、そういうものが広がるような形がモデル的にいいのかなと思いました。情報提供でした。

近藤部会長

この福祉避難所の周知について、具体的には誰に対してどのようなことまで周知・公開するのか。南区さん、何かコメントされますか。私から一般的なコメントをしましょうか。

自治推進課長

今いただいたご意見ですけれども、誰にというと、一義的に地域の皆様に、まず制度として指定避難所があるということを周知することを考えています。これまでも皆様の防災訓練等でもご理解いただいているところなんですけども、この防災の仕組みの中で実際の状況に応じた福祉避難所の開設がございますので、まずそういった福祉避難所の制度があって、またそれに基づいて施設が今20か所あるということを知っていただく。地域の皆様にはその事実を知っていただくというところで今考えているところです。

近藤部会長

この福祉避難所の情報の公開って自治体の違いがものすごく出ている領域でし

て、またホームページ上に全く何も載せてない自治体もまだあります。関西にもあります。それからリストだけ1行を見せている自治体などもあります。

最もたくさんの情報を出しているところは、福祉避難所のレイアウトやどの部屋がどんなふうに使えそうということや、踏み込んでるところではキャパシティを書いているところがあります。ただし、ふだん利用しているので、そのとおりその数字どおりに使えるかは分からないということもあります。それから主にどんな障害・ハンディのある方にその場所がふさわしいかを書いている自治体もあります。例えば、精神障害の方がいらっしゃる場合にはこの空間を区切って使うといいでしょうというガイドまで示している自治体も出てきました。

問題は、やはり岸本委員がおっしゃったとおり、踏み込み始めたときの混乱っていうのがありますよね、今の段階ではちょっと無茶ではないかっていうコメントで、まずは岸本委員の認識が一般的なところだと思います。もしやるなら、今言ったような先駆的に頑張ってる自治体が出てきたので参考にして、多くの人の共感をいただきながら進める。情報が共有されるようになって得する場合もあって、もっとこうしたらいいんじゃないかというアイデア・意見が来るんですね。アイデアが来た場合に利用できるのも、ものすごく積極的に情報公開している自治体が出てきました。特定の自治体の名前は出しませんが、関西で非常に先進的なところもホームページ上に公開していますので、参考にしていくといいかもしれません。

南区だけでできるものではなくて、堺市全体でレベルを合わせていく必要もありますので、これは部会として方針を示していけるといいと思います。誰にどのようなことまで周知していくのかの吟味・検討をして欲しいってことはちゃんと明記、議事録に残していきましょう。大事な意見を頂いたと思います。

あと、保育園・こども園の利活用もこれもいいアイデアなんですね。とても難しいんですよ。災害が起きたときに保育園・こども園が復旧しないと親御さんが復興事業に携われない、普通のビジネスに戻れないので保育園・こども園は基本的にアンタッチャブルなんですけども、阪神・淡路大震災ほどの大きな災害になると、この保育園・こども園のスペースを借りて診療所を開設したことがありました。優先順位の高いケアを行う場所に成り代わるという意味では、実はとても有効なスペースなんですね。事前に協議しておく、さらに混乱がないのではないかと思います。そして、内々の協議を始めてる地域はあちこちあります。

最後、白いシールを貼って公園に集まっていいですね。こういう防災のアイデアをあちこちから集める、LINEグループかツイッターでもいいと思うけど、平常時に防災のアイデアを集める情報収集強化ツールがあるといいかもしれません。これマネしてねっていうような情報を上げておく場所があると参考になるのかなと思って聞きました。ありがとうございます。

では、二橋委員、お願いします。

二橋委員

前も私ここで発言したと思うんですけど、小学校の校長をしてまして、南区っていうのは非常に児童数が減ってきている。空き教室ではないんですけども、結構ゆったりと使ってるので、そこを充実させていくことで、ある意味小学校とか中学校の防災教育という視点も子どもたちにも生まれると思います。先ほど、岸本委員も言っておられましたけど、何か災害があったときに、まずやっぱり避難所といたら小学校、近くの小学校に行くということが思い浮かぶと思うんですね。そこで、指定避難所や福祉避難所など、あなたについてはこういうところもありますよ、こういうところもありますよという仕分けが要るんじゃないかなと思いました。その司令塔が誰になるか、それは市になるのかも分かりませんがね。

だから、小学校にある程度福祉避難所的なところを充実させていくことで、そ

れがずっと避難のときだけ使うんじゃないし、ほかのときにも使えるようになるのではないかと。例えば、コロナ禍において保健室は1個しかないの、違う部屋を設けて、今熱があったときは違う部屋に行ってもらったりしているわけです。だからそういう部屋を作っておいていただけたら、小学校としても助かる。そういう部屋を子どもたちにも開放したら、「あ、この部屋は何かがあったときのためにあるんや」という教育にもなって小さいうちから学んでいけるんじゃないかなと思いました。

私は「誰一人取り残さない」というのは、やっぱり情報やと思ってるんですよ。自分の家でも頑張れる人もいるかも分からない。でもなんかのときにここに行ったとか、こういう手助けをしたとか、こんなことがあったら最後の望みをつないで何か助けてくれるんじゃないかという、情報をしっかり発信していくこと、それがちゃんと身につけてるということが大事だと思う。避難の手引きを作っても、ずっと読んでるはずはないし、どっか行っちゃってると思うんですね。でも、もっと簡単に、こんなことがあったらこうするんやっていうことが、空気を吸うみたいにできていくということが本当の防災能力を高めることやし、みんなを守ることにつながるんじゃないかなと思ってるんです。

それから、小学校同士の助け合いについて、具体的にどんなことでしょうか。自分のところのことで精いっぱいですよ、きっとね。どういうことを考えてるのか、もう少し突っ込んで聞きたいなと。助け合いという言葉はいいのだけど、どんなことを想定して、どんな助け合いができて、どんなことができるのか。例えば、それぞれの小学校の防災倉庫に全く同じ物が入ってますけど、ここの倉庫はこんなもんがいっぱいあるんや、ここの倉庫はこんなものがある、こんなときはこっちからこっちへ持って行ったらいいんや、というんやったら助け合いができるかなという気もするんですけど、金太郎飴のようにみんな一緒のものが必要なのかどうかというところも思ったりもします。だから、福祉避難所の周知というのであれば、やっぱり一つの校区に一つは欲しい。そうでないと周知の意味がない。それやったら、まず何かあったときはここ行ってくださいということ、一つのルールみたいなのを作っていただこうかいいのかなということも考えます。

近藤部会長

この最後の部分、校区一つに一つは福祉避難所の指定箇所があるといいなというのも多くの住民の皆さんの声だと思いますので、それを大切にして、かつ融通し合うということの道を開いていく必要もあると思います。二橋委員には小学校をうまく利活用できるといういいよと、再三、コメントをいただいていたと思います。多分、この南区モデル（案）という言葉に落とし込むときに、具体的な地域と密着したという言葉に丸くなってしまったかもしれませんが、その意図はしっかり組んだ形で盛り込んでいけるといいと思いますね。

学校運営協議会ってありますけれども、中学校を核にして運営協議会を持っている自治体などでは、中学校が小学校三つ、四つを束ねる司令塔になって、例えばA、B、C、Dという小学校の情報を一つの中学校に統合して集める。そして、Bの小学校がAの小学校をちょっとサポートしてやってくれんかというような差配するっていうことを検討し始めてるところもあります。

多くの災害で、中学校・高校は何をしてるんかなってなりますので、役割分担を考えてるところも出てきたようですけれども、南区さんは小学校の空間を防災教育や有事の際にも活用していくという部分は、どんな感じでイメージされてますかね。

自治推進課長

災害時に学校をどう活用していくかという点ですけれども、基本的にはまず、

震災後、避難所に学校の体育館がなりますけれども、それ以外の教室等については災害後に子どもたちが学習していくという過程に移行していくと考えております。学校の中にそのまま災害教育を、というのも非常に大切な考え、視点だと思うんですけれども、その部分を全面的に学校でお願いするという視点よりもむしろ、地域の皆様がいろんな教育の中で学校にも関わっていただきながら進めていくことができればいいのかなと思っておりまして、学校に全面的に、というまでのイメージはしてないところです。

あと、今いただいたご意見と少し別の意見に対しての答えになるんですけれども、小学校区同士の助け合いの中の具体的なイメージについて、どちらかと言うと小学校区単位で日頃の防災訓練等皆さんで行っていただいております、中学校はどうなのかと各校区の皆様からいろんなご意見いただきます。中学校が避難所になっている、また防災倉庫があるがその部分はどのように運営していけばいいのかという点だったり、校区によってそれぞれ違いがあって、一校区で全てを賄っていくのが、これから例えば5年、10年見ていく中でなかなか難しくなってくるところも出てくるところもあるかもしれません。そういった点を踏まえて小学校区同士、お互い助け合って、防災の取組をしていける部分があれば、お互いにとってもいいことじゃないかというふうに思っております。

近藤部会長

恐らく、二橋委員が想定している災害の規模感と、今コメントいただいた南区のイメージと、ちょっとギャップはあると思っていて、かなりの災害になると地域も大混乱してるので、授業を再開どうこうというのは大分後の話になることも多くて、そうすると限られたスペースしかないわけなので、小学校の教室も含めて、しっかりみんなで使い合うという、そういう状況も想定しておかないといけないかもしれません。

南区に堺市の海側のゾーンの方が大勢避難してきた場合は、もう完全にオーバーフローしてでも何でも収容するしかないですね。それを堺市危機管理課の皆さんと以前議論してたんですけども、そういう意味で二橋委員のコメントはかなり踏み込んで小学校全体をうまく活用していくことも想定してはどうかという意見をいただいたかなと思うんですね。なので、規模感とそれからフェーズ、時間として、最初の1週間なのか、3か月ぐらい続くことなのか、その辺りも含めてちょっとここも議論を大事にしていけるといいかなと思います。

二橋委員

もちろん、今マスコミ等で言われる「教員忙しい」「教員大変や」ということもあって、いろんな教育をやらなあかん中で、防災教育もとか、あるいはそういう避難所の施設のいろんな整備もやってくれと全部丸投げされたら、これは大変やと思います。いや、違うんです、私らがやるのは子どもの教育なんですよということになってしまうやけれども、そこはやっぱり、みんなのことですから、地域のための財産ですから、本当に知恵を出し合って、地域の財産をみんなで充実させていくという形で、それこそ自治会とかいろんな方に来ていただいて、ちょっとだけ教員もお手伝いするということなら、そんなに負担感もないのかなと思います。やっぱり命っていうことが大事なことでございますので、それを守るのにどうしたらいいのかという資産をしっかり活用できることが大事なかなと思います。

近藤部会長

ここはまた地区ごとでも事情が違ってくるかもしれないので、こういう地区防災計画をつくるときに、学校にどれぐらいお世話になれるのか、もしくは避難所の運営こそ住民でも回していけないといけない、というイメージをもって計画を立てら

れるといいと思います。学校も避難所運営マニュアルとか、対応マニュアルを作っていくわけですが、地域の方とどうやってタッグを組むかという構想があるわけですね。お互いの構想を見せ合わない限り、全部思い込みだけでみんなとじて行きますので、そろそろ重ね合わせないといけない。こうやって我々何回も集まっていますけども、いっぱい議論したけどねっていうので終わっちゃうのはちょっと残念ですね。

そういう意味でも、とても大事なポイントで、オフィシャルにこう決めましょうってやれる問題ではないんですけども、この問題はとても大事なんだということはまず共有しておいていただけたらいいと思います。

野崎委員

情報共有ということで、今回、上神谷地区防災計画を見せていただいてすごく参考になりました。

原山台校区でもマニュアルを作ってるんですけども、2ページぐらいです。実際、避難所をどう開設するかのだけで、誰が鍵を開けて誰が体育館、誰が受付でという人の配置も決めて、実際自分の役割が分かるような状態にして、避難所を開設するまでだけのマニュアルを作っています。何時間以内に集合して、とかそれ以降は作ってなくて、まずそれすらできないやろなという話をしています。

実際、仕事中に災害が起きたときに僕がほんまに避難所に行けるのかとか、マニュアルどおりに行くのかなという課題もあるので、各校区の災害マニュアルとか防災計画を見せていただけたら、もっと校区でいろんないいマニュアルができると思うので、こういう情報共有というのはどんどんしていただけたらすごく有り難いと思います。

福祉避難所の地図については今初めて見させていただいたんですけども、民間施設の避難所はふだん利用されてる方がおられるので、実際に災害が起きたときにその利用者の方々の対応に追われて、実際そこにほんまに何人避難できるのかなと思います。④の上神谷支援学校なら空いてるので大丈夫なのかなと、一点気になった点です。

自治体によって避難所の周知の仕方はまちまちですよと近藤部会長がおっしゃったので、堺市は一体どんな感じで周知されてるのか、市民はどれぐらいそれを理解できるのか、自分からホームページを見に行ったら分かるのかなとちょっと気になりました。

あと、やっぱり支援を受ける方は高齢の方が多くて、支援する側は若い方ですよ。誰一人取り残さないとか、みんなが安心して住めるまちっていうのは、やっぱり地域がお互いコミュニケーションをしっかりと取っていて、情報共有もはっきりできて誰が要支援者かどうかというのは分かる状態じゃないと助けにも行けないんですけど、うちの校区やったら連合自治会に入っているのが3割で、7割は入っていない、そんな人らはどうやって助けに行くねんとか誰が行くねんとか、そもそも自治会がないところではどうやって助け合えるんやというのはふだんから思っています。自治会に入ってる人だけが防災訓練に来て、「安否確認カード」や「安全ですシール」を持ってる状況で、上神谷校区など昔からずっと地域でまとまって防災に取り組んでいる地域ではこんな計画ができていくけど、ニュータウンはやっぱり弱いinchやうかなというのがあります。現在、各校区で連合自治会に入ってくる人の方が多いのか、やっぱり減っていったのかも知りたいし、そもそもまちづくりができてないのに防災だけ通じて安心安全なまちってできるのかなってずっと思っています。まずまちづくりが大事なのではないかな。地域のコミュニケーションがどんどんなくなっていく中、学校跡地などにできた新たな地域には自治会があるのか、自治会をつくるのが条件になっているのか、堺市にそういう権限があるかなど分からないですけど、新たな地域をつくりっぱなしで自治会もないというようなまちがどんどん増えていったときに、ほん

まに安心安全なまちができるのかというのが一番心配だと思っています。

今は近所付き合いとかが昔に比べて薄くなってきている時代の中で、そんなまちづくりを堺市や南区がしていって大丈夫かなとか、という思いはすごくあるので、ちょっと言わせてもらいました。

近藤部会長

大きなテーマをいただきました。以前確か「にわとりが先かたまごが先か」のフレーズもいただいたと思うんですけども、この部会としては防災を通してまちづくりも進んだらという思惑もありますけれども、野崎委員のおっしゃるとおり、基盤がないのにどうやって積み上げていけるんだらうという不安もあるかと思えます。両輪なんですけどね。自治会費を払っていない人は炊き出しの列に加わるなっていうやり方をもう取っているところが出てきてまして、追い返すんですよね。そんなことが我々の共助なのかなって不安になります。

一方で、自治会に入らなくても、まちづくり協議会などの防災の組織には入っているものとみなして、一緒に助け合うというルールを持ったところもあります。だから、これから南区さんのその自治会の推移がどうなるかですけども、皆さんの思いを共有できるかによってはとても厳しいやり方が待っているのかもしれない。

特別養護老人ホームや介護事業者があと2年ぐらいで、各事業所ごとにBCP（事業継続計画）という形で、災害が起きた場合の計画をつくらないといけなくなってるんです。その場合に、何人受け入れるのかとか、どの事業を辞めちゃうのかとか、そういうことも盛り込んでいくので実はそういうものが分かるのもっと地域でやらないといけないことも見えてくると思います。

今あちこちで計画、計画ってやってまして、絵に描いた餅になるんじゃないかと皆さん思うかもしれないんですけども、要は計画をどう使いたいかなので、もっとオープンにすればチェックリストになるんですね。つくるだけでも相当な勉強になって、実は何が足りないのかなってのが見えちゃうんです。よっぽどその効果が大きくて、これを丸暗記しても何の力にもなりませんもんね。プランをつくることで課題を浮き彫りにする、それを共有できるかが勝負のしどころだと思います。ということで今日、本当に公開いただいたのは南区のご助力だと思うんですけどもすごくよかったなと思います。

そして、鈴木委員、何かさらに追加でありますか。

鈴木委員

福祉避難所のことばかりになるんですけど、例えばこちらビッグ・アイが福祉避難所になったときに、何人ここにいて、どういう受け入れができるかっていう情報を施設は持ってる。民間施設の福祉避難所はさっき野崎委員おっしゃったようにほぼ受け入れできないだろうし、支援者も多分被災してるわけですから、この情報って結構重要だなと思います。「福祉避難所がありますよ」と言われたら、使えると思ってしまうので、そういう周知だけではなくて、校区の小学校もそうですけれども、どういう体制でどういう使い方ができて何人入れてどこから来れるかっていうところの情報ってすごく重要だなと思いました。

あと、BCPに関してはビッグ・アイも講座をやってたんですけども、多分おっしゃるように2年後ぐらいに皆さん出すので、その辺の情報も明らかになると思います。

ビッグ・アイでも定期的に、要配慮者、特に視聴覚の障害のある方への支援リーダーの育成、要配慮者の支援講座、支援リーダーの育成を、国の事業で毎年やっていて、今年は11月ぐらいに実施します。前はホールを使ってダンボールのベッドを作ったり部屋を作ったりっていうこともやっていました。今はコロナの関係でできないんですけど、ユーチューブで動画配信しますので、こういったと

ころを南区のほうからも周知していただいで、日頃の防災に備えていただくと
か、防災士さんはじめ民生委員の方が日々、災害があったときにどう動くかと
か、そういった講座ですのでぜひ受けていただけたらと思います。

近藤部会長

野崎委員からも二橋委員からも情報が大事なんだって言っていただきました。
鈴木委員からも言っていただきました。正木さん、何か情報に関する点で閃いた
こととかありませんか。

正木委員

ツイッターで安否確認をすることについてなんですけど、私の大学で寝坊する
人がたくさんいるので、起きたら「いいね」をするという確認方法があったん
です。それで無事だったら「いいね」をするだったら、そんなにあまり手間もか
かりませんし、名前を登録しておいたらその人が無事だ「いいね」ができるとい
うことが分かるので、すごくいいんじゃないかなと思いました。

近藤部会長

ありがとうございます。安否確認のツールがあるとか普段も訓練できるし、普
段ここにいる委員の皆さんが寝坊かどうかを確認する必要ないですけど、元気に
してるかどうか確認できるツールもあるといいですね。

3. その他

近藤部会長

最後に南区から今後のスケジュールの中で視察というのをいただいでいまし
たので、このあたりで具体のアイデアとかあればいただきたいと思うんですがい
かがでしょうか。

自治推進課長

視察なんですけども、先ほどお話の中で指定避難所、備蓄倉庫についてはご存
知の方も多くて日頃訓練していただいでいるんですけど、福祉避難所や福祉ス
ペース、例えば上神谷支援学校とか地域会館等に伺おうかなというふうにお
ります。

特に、福祉避難所の制度の仕組みについては、基本的に指定避難所に行かれる
か、もしくは在宅避難という形が基本になるんですけど、その中で避難された場
合、区の災害対策本部であるとか市の災害対策本部と情報共有しながら、市の保
健部等がその避難所を巡回しまして、福祉避難所に移動していただく必要があ
る、施設を開設する必要があると判断された場合に、福祉避難所が開設される
というのが、堺市の枠組みとなっております。その枠組みに基づいたスペースと
して、上神谷支援学校と地域会館でご提案させていただけたらと思います。

近藤部会長

この地域会館も同じ地区にあるのですか。

自治推進課長

1件だけ今実際にそういう支援避難所ということで取組をされている校区が近
くにありますので、この会の後、具体的に調整を進めていきたいと思いま
す。

近藤部会長

委員の皆様、ご提案いただいたような内容の場所の視察とかでいかがでし
ょうかね。恐らく、現場に行ったときに今日のような話題がさらにホットにでき
るか

もしもかもしれませんが、その場に行くといろいろ閃いてしまいますからね。
夏ですかね、7月・8月からの予定で今の2か所ですと1日というか、半日ぐ
らいで回れるというイメージですかね。

自治推進課長

そうですね、大体半日あれば回れるんじゃないかと思っています。

近藤部会長

もちろん、コロナ禍の状況を見ながらだと思えますけれども、ぜひ一度具体的
な現場も踏まえて、そして次の次になります第4回、今日のような議論の重要
ポイントを全て網羅する形にしたいと思えますので、今後ともよろしくお願
いします。

4. 閉会

区政企画室長

部会長、ありがとうございました。委員の皆様、本当にありがとうございました。
た。

本日は長時間にわたりましてご議論いただき、本当にありがとうございます。

これもちまして、堺市南区政策会議第3回安全安心創出・未来共創推進部会
を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。

閉会（午後8時11分）